

## 5. 本明川の整備

本明川は河川整備とダムにより、昭和32年7月の諫早大水害規模の流量

(基準地点裏山1,070m<sup>3</sup>/s) を安全に流せるようにする計画です。

河川整備は大きく3つ行っています。

①河道掘削（かどうくっさく）…多くの水を流せるように川底を掘ることに

よって、洪水時の水位を低下させます。

②引堤（ひきてい）…多くの水を流せるように堤防を左右に広げることによ

って、洪水時の水位を低下させます。

③橋梁架替（きょうりょうかけかえ）…多くの水を流せるように、短い橋を

長い橋に架け替えることによって、川

幅を広げ水位を低下させます。

また、水面から橋梁までの高さを確保し、流木等をスムーズに流せるように

整備を進めています。

写真や図を併せてより詳細に解説しておりますので、以下のパネルをご覧ください。

# 本明川の河川整備

【本明川河川整備の基本的な考え方】

本明川は河川整備(引堤、河道掘削等)と  
ダムにより、昭和32年7月の  
諫早大水害規模の流量<sup>\*</sup>を  
安全に流せるようにする計画です。

<sup>\*</sup>(基準地点裏山 1,070m<sup>3</sup>/s)

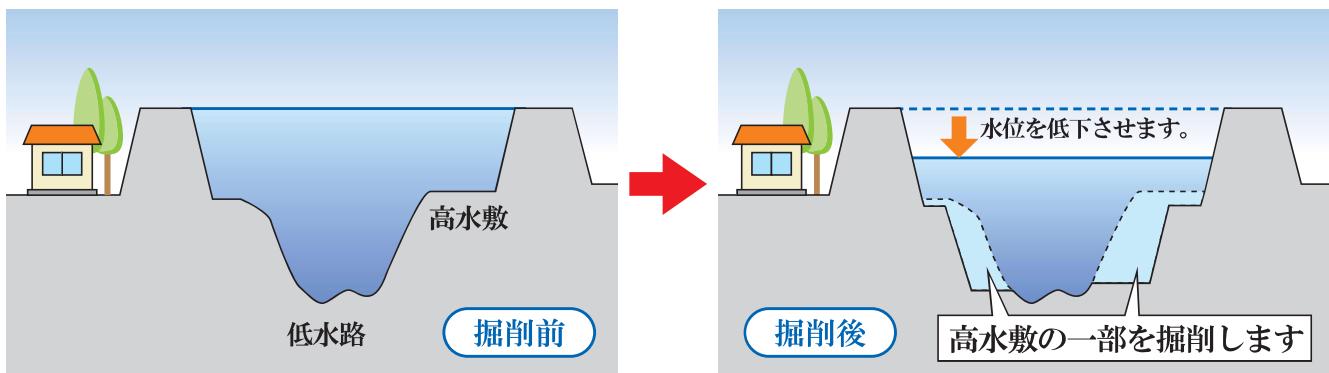
■平成17年度以降進めている整備内容



# 本明川の整備内容と効果①

## ■ 河道掘削

流水を流下させる部分を河道と呼びます。河道は通常時に水が流れている低水路と、洪水の時だけ流れる高水敷に分けられます。この河道内を掘削し、整備することを河道掘削といいます。これにより洪水時における水位の低下を図ります。



## ■ 本明川中流部での整備



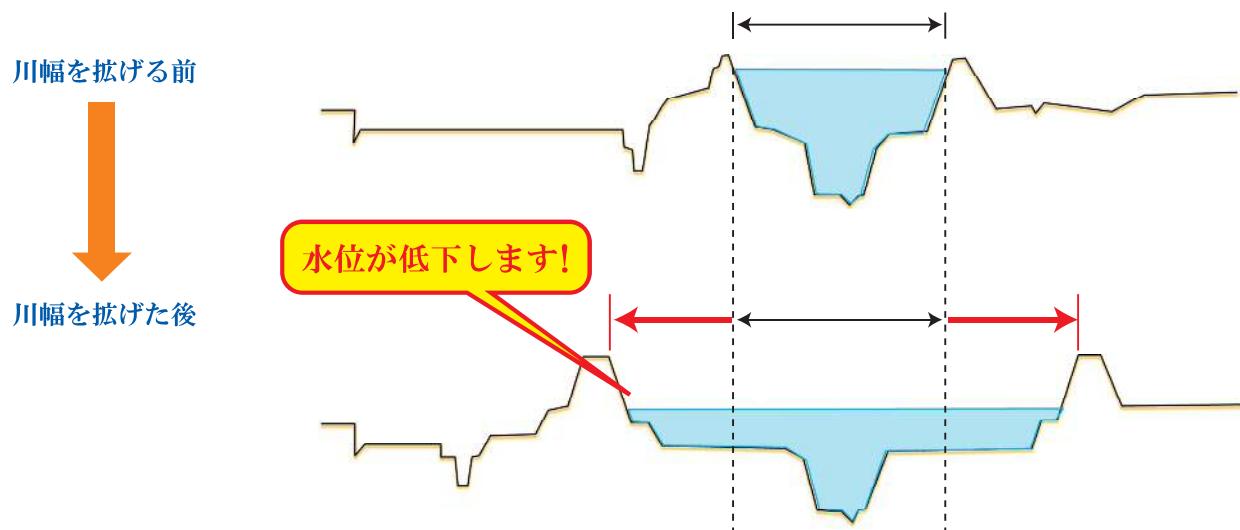
### 整備の効果

掘削により、河川の断面積を広げることで、  
洪水時の水位を低下させます。

# 本明川の整備内容と効果②

## ■引堤

たくさんのかずかずの水を流せるように堤防をつくりかえ、川幅を左右に広げることを引堤といいます。これにより洪水時における水位の低下を図ります。



## ■半造川での整備

### 整備前



### 整備後



## 整備の効果

堤防を川裏（住宅や田畠）側に引き、川幅を広げることにより、洪水時の水位を低下させます。

# 本明川の整備内容と効果③

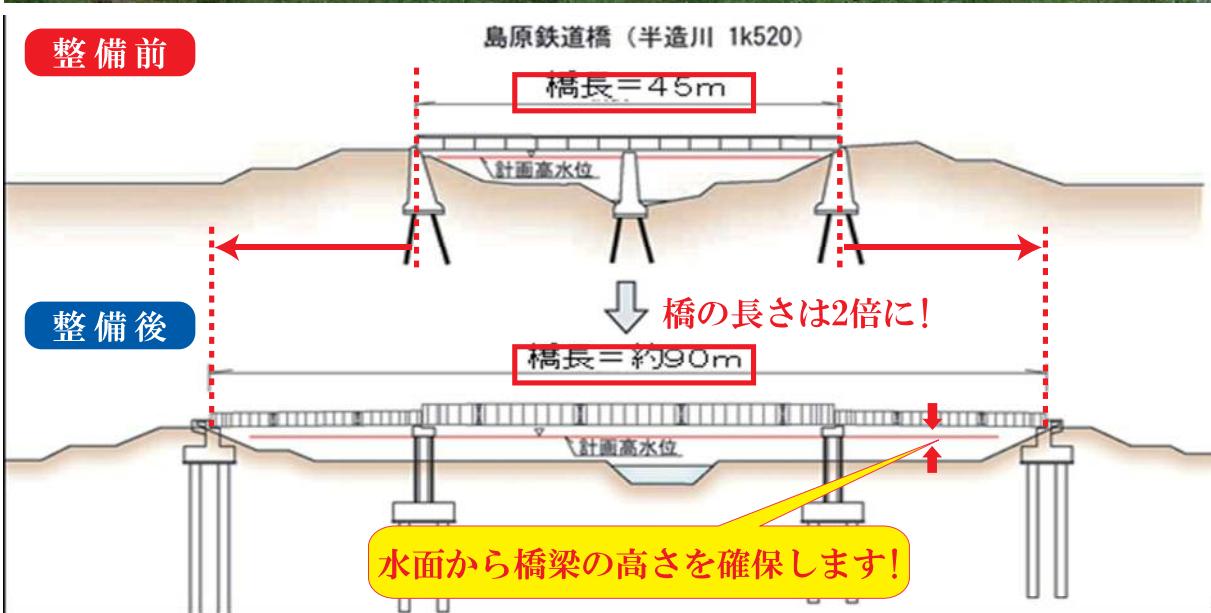
きょうりょう かけ かえ

## ■橋梁架替

たくさんの水を流せるように、短い橋を長い橋に架け替えます。

これにより洪水時における水位の低下を図ります。

■半造川での整備（現在は仮橋の撤去作業中）



### 整備の効果

橋梁架替により、河川の断面積を広げることで、洪水時の水位を低下させます。

# これまでの河川整備により 本明川の治水安全度は向上しました。

■昭和32年(諫早大水害直後)



■平成27年(現在)



しかし今、ふたたび「諫早大水害」と同規模の洪水が  
起こった場合、安全に洪水を流せません！

# これからは、みんなが より安全に避難できるように していきます。

## ■事前防災行動計画「水害タイムライン」とは？

水害タイムラインとは、防災関係機関が連携し、住民のみなさんの命を守るために、「いつ」、「誰が」、「何をするのか」をあらかじめ時系列で整理した事前防災行動計画のこと。

### 水害タイムライン（事前防災行動計画）の連携イメージ

